

校庭の植物

4校の風景



三崎中学校



初声中学校



上原中学校



南下浦中学校

三浦市教育委員会

みなさんは・自分の郷土について・どのくらいよく知っていますか。この本は、「わが郷土・三浦」について自然科学の面から、校庭の植物・三浦市の地層について、解説したものです・自然の郷土について、知識を深めれば深めるほど、それだけ自分の郷土を大切にし、誇りに思うものです。

この本を通して、みんなの心の中に、わが郷土・三浦半島(特に三浦市)の自然についての知識を広め、かけがえのない郷土を大切にし、そしてもっと広く、自然というものに対する認識を深め、自然を大切にすることを育てられたなら幸いです。

三方を碧い海に囲まれた自然美の故郷・三浦

君は、この三浦に生まれ、

この三浦に育ち、

この三浦を愛し続ける、

前途有望な可能性を秘めた教え子に、

この本を捧げる。

1. 中学校理科副読本「校庭の植物」発刊によせて

皆さんの身の回りの植物には、花がきれいに咲くもの、そうでないもの、食べられるもの、毒を持つもの、薬として利用できるもの、季節により身の回りの行事に利用されるもの等、数多くの植物に囲まれて生活しています。

花がきれいに咲く植物の名前については、知ろうとするが、それ以外は興味・関心があまりないのでは・・・。

皆さんが今立っている大地に生えている植物のうち、何種類に知り合いがいますか？

今日から植物と友達になりませんか？

まず、校舎周辺の植物の観察をしていきましょう。そして植物の同定と、気づいたことを記録していきましょう。おもしろい発見ができると思います。

また、学校には多くの樹木が植えられています。何十年も経った樹、季節によってきれいな花を付ける樹、名前は知らないが気になる樹など樹木についても「お木にいり」を決めて観察をしていきましょう。

植物を観察することから自然環境を知り、人と植物の関わりから生活環境の大切さを知ってもらえればうれしいことだと思います。

まずこの本を持って、外に出て植物を手にするこゝで、校庭にどのような植物が生活をしているかを知って欲しいと考えた市内の理科の先生方が編集したものが、この「校庭の植物」です。

この本を参考にしていくつの植物が発見できますか。一つでも多くの植物と友達になって欲しいと思います。

また、より詳しい本を読んだりすることがあれば、本当にうれしいことだと思います。

最後になりますが、編集に携わった先生方をはじめ関係者の方々に深く感謝申し上げます。

さらに、よりよい副読本にするために、皆さんが気づいたことや意見・感想等を聞かせていただければ幸いです。

2. 「校庭の植物」の活用の仕方

「三浦の校庭の植物」の活用の仕方

みなさんは植物に対しどんな興味がありますか。授業で習ったことだけでなく、あなた自身が興味を持ってもっと詳しく調べてみたいことはないでしょうか。今はまだ植物の名前などに詳しくない人も、この本を通して学習していくうちに、大切なことに気がつけるかもしれません。みなさんで次のことに挑戦してみませんか。

1. 学校のコンピュータを活用して、自校の植物データをレベルアップしていく。

この本は、三浦の理科の先生方が、1998年から2000年にかけて、校庭の植物を調査した結果をまとめたものです。しかし、限られた季節に、数人の先生で調べたものなので、その結果としてのデータは、完璧なものとは言えません。この本に載っていない植物を見つけたり、「自分の学校にはない」とされている植物を発見したりできるはずです。新発見の植物をデジカメで写して、後輩のためにより正確な、自校の植物データベースを作っていくのは、とても楽しい作業だとは思いませんか。

また、今ある植物の分布範囲も除草作業や、季節の違いで変化して行くはずで
す。「校地の植物コンピュータ図鑑」作りに、この本を活用してみませんか。

2. 植物に詳しくなる。

この本の植物の説明と読み比べてみて、実物が実際にそうなっているか確認
してみましょう。もし、その植物について、さらに気づいたことがあれば、「校
庭の植物コンピュータ図鑑」に、あなたの名前とともに、発見したことをメモ
として残すことができるでしょう。

3. 「総合的な学習」・「自由研究」などの調べ学習にこの本を活用しましょう。

『考えられるテーマのヒント集例』：興味があれば取り組んでみてはどうでしょう。

- ①植物分類表を作って、校庭にある植物がどこに分類されるか挑戦してみましょう。
- ②神奈川県の中で、三浦市だけにあるかもしれない植物はないでしょうか。
- ③気孔はすべての植物にあるのでしょうか。シダにもコケにも？
- ④落葉樹と常緑樹の葉っぱにはどんな仕組みの違いがあるかな。
- ⑤毒のある植物はないでしょうか。その植物に虫や鳥は来ているでしょうか。
- ⑥たとえばセミが好きな木があるのでしょうか。
- ⑦松ヤニや、白い乳液タイプなど、何で植物の樹液の様子が違うのでしょうか。

その他気づいたことを掘り下げていけば、よりよい研究が出来ることでしょう。

3. 三浦市の代表的な風景（植生）



①油壺



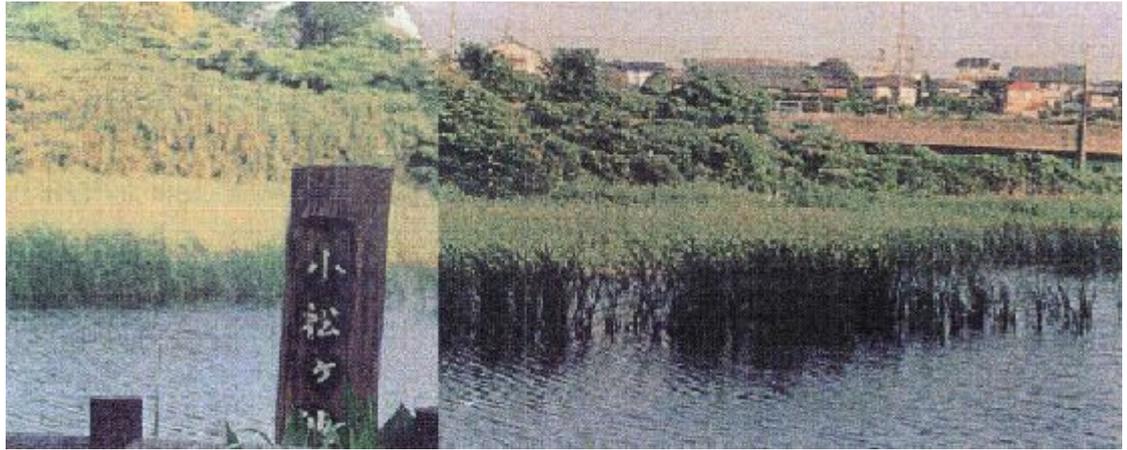
②小網代の森



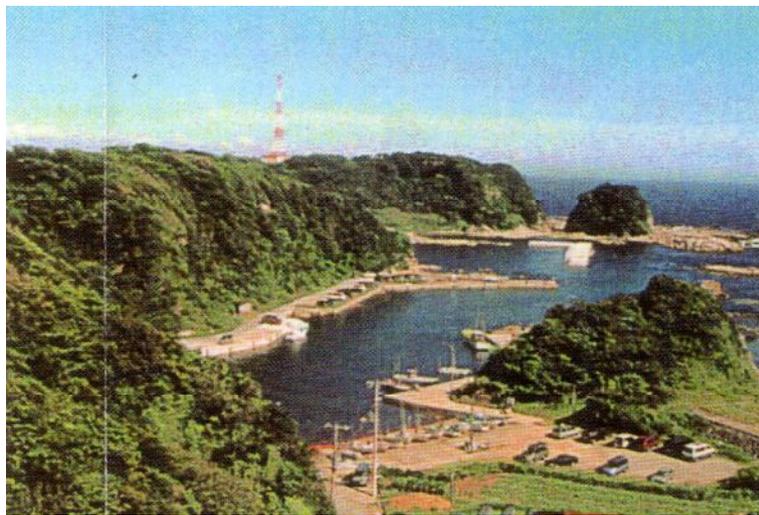
③城ヶ島



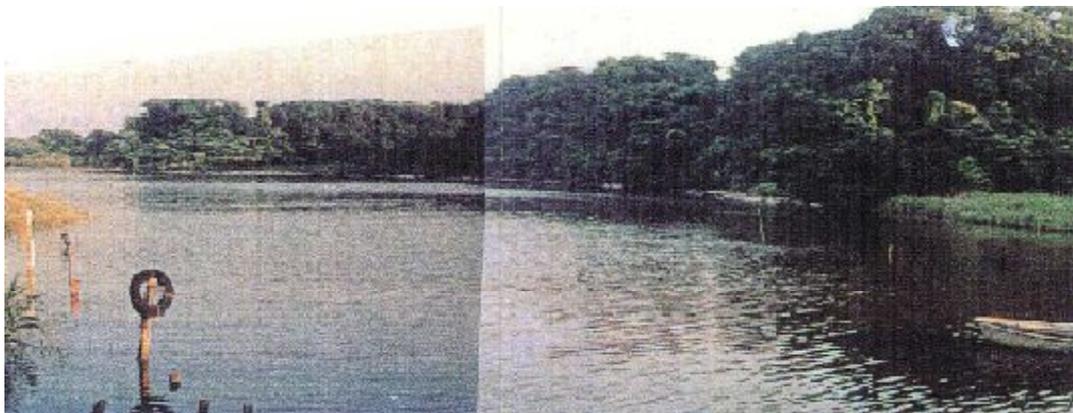
④岩堂山



⑤小松が池



⑥宮川湾



⑦江奈湾

4. もくじ

1. 発刊に寄せて	3
2. 「校庭の植物」の活用の仕方	4
3. 三浦市の代表的な風景（植生）	5
4. もくじ	8
5. はじめに	9
6. 三浦の位置と環境	10
1) 気候	
2) 地形	
3) 植物	
4) 植生	
7. 花実の色で植物を知ろう	16
8. 校庭の植物（草本類）	40
1) 授業の野外観察で、春を探そう	
2) タンポポマップを作ろう	
3) 校内植物調査表	
9. 木の肌で樹木を知ろう	82
10. 校庭の植物（樹木類・つる性）	89
1) 授業の野外観察で、樹木を知ろう	
2) 校内植物調査表	
3) 問題	
付録 [三浦の植物観察コース]	123
①小網代の森の植物	
②小松が池周辺の植物	
③黒崎海岸の植物	
④城ヶ島の植物	
⑤雨崎海岸の植物	
⑥剣崎の海浜植物	

5.はじめに

私たちの住んでいる三浦市は、「豊かな自然」があるとよく言われます。あなたは、この「三浦市の豊かな自然」という言葉から、何を思い浮かべますか。緑豊かな小網代の森、生き物がいっぱいの磯、一面に広がるスイカ畑……。他にも色々あるでしょう。

このように自然・自然環境という言葉や、それらが豊かだという表現はよく使われています。しかし、それをどう感じるか、また、どのくらい豊かなのかということは、人によってかなりちがいますね。

また、自然というと、人間と自然という言葉の対比に見られるように、人間を自然の外において考えることも多いようです。

そこで、三浦の自然を知る手がかりとしてこの本を作りました。まずは本を片手にどんどんフィールドに出て、三浦の自然を自分の目で、耳で、そして、からだ全体で感じ取って下さい。

ここ三浦で暮らし、「三浦の自然」をその一部としてつくり上げている君たちが、自然を知り、もっと三浦を好きになってくれたらうれしいです。そして、「三浦の恵まれた自然」を私たちだけでなく、私たちの子孫まで豊かなままで残していけたら素敵ですよ。



ハチジョウナ（毘沙門湾）

6.三浦の位置と環境

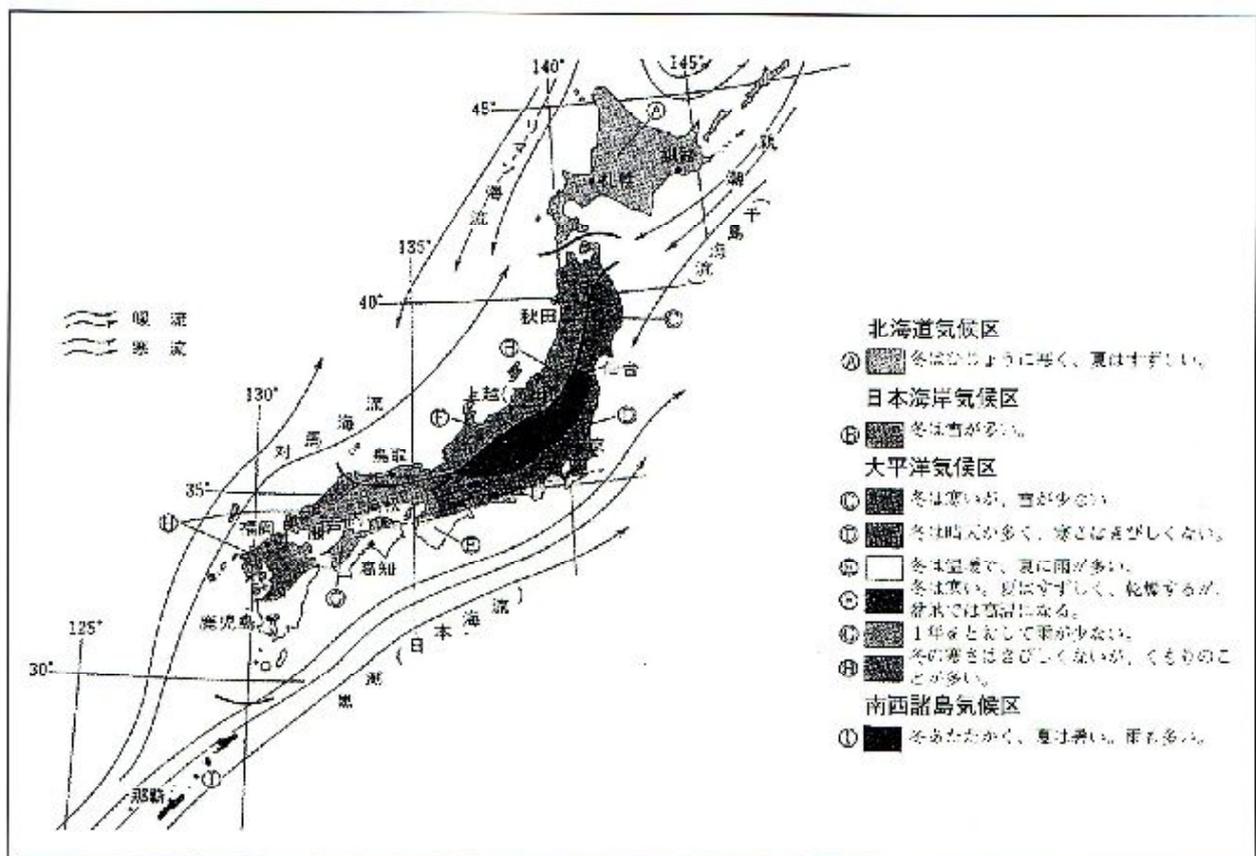
1) 気候

三浦市は、日本全体の気候区分では、大太平洋気候区に属しています。春から夏にかけては湿った南東の風が吹き、秋から冬にかけて乾燥した北西の風が吹きます。年平均気温は 16.0℃、最寒月(2月)の平均気温は 6.8℃、最暖月(8月)の平均気温は 26.0℃で、冬暖かく、夏涼しい海洋性の気候といえます。年間降水量は平均で 1200～1700mm で、県内では比較的雨の少ない地域です。

このような温暖な気候の元、冬でも緑の広い葉をつける、常緑広葉樹が正育しています。(日本の植生図を参照)

また、三浦では、古くから一年の天気を占う「ヤマセ」があり、天気の変化を読み、農業・漁業生活に生かしています。

このように、気候はそこに生育する植物に大きな影響を与えるだけでなく、人間の生活にも関係しています。



日本の気候区分

2) 地形

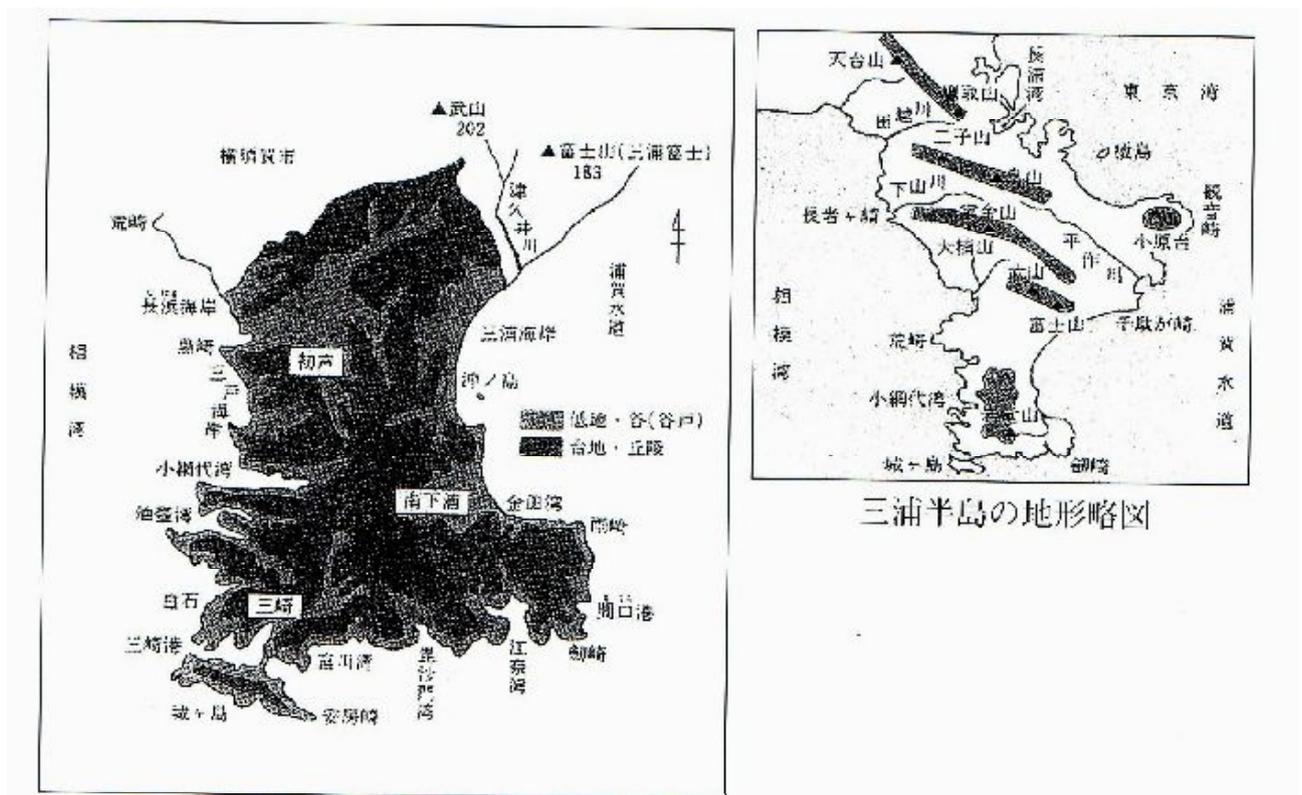
三浦市には高い山はありませんね。最高峰?の岩堂山(82.4m)は台地の頂点、引橋より低いですって知っていましたか。坂を上ると一面の畑。これは、三浦市を代表する風景ですね。その場所にどのような植物が生育しているか、また、人にどのように土地利用されているかは地形と密接に対応しています。

三浦半島は、地形・地質学的に見ると、北部、中部、南部の3地域に分けられます。三浦市は、市域すべてが南部地域に含まれます。この南部地域とは、武山断層以南の地域で、台地が広く発達しています。

南部地域は東京湾の三浦市菊名から相模湾岸の黒崎ノ鼻に至る、南下浦断層を境にして、北側の宮田台地と南側の三崎海食台地に二分することができます。

低地は広くはありません。谷底平野が台地を刻む小河川沿いに細長く発達しています。初声地区には、わずかに平地があります。

また、北部の砂浜海岸、南部の岩石海岸と、変化に富んだ海岸線(長さ約42.9km)が、三浦を特徴づけています。



三浦市の地形

3) 植物

「緑に固まれた豊かな環境」。この緑とは、植物に他なりません。植物はその場所の自然を現す格好の指標と言えます。

人の手の加わっていない場所、人が手を加えた場所。それぞれの場所に、そこに適した植物が生育しています。

三浦に存在している植物は、人間が生活を始める前から今までの、長い歴史の積み重ねを反映しているのです。

三浦市の植物は鈴木・大森・田中氏（1985年調査）によってまとめられています。それによると、城ヶ島を除く三浦市域の維管束植物（種子植物とシダ植物）は811種、城ヶ島のそれは382種となっています。



フデリンドウ



セイヨウタンポポ



ハンゲショウ



ハマナタマメ



イノデの仲間

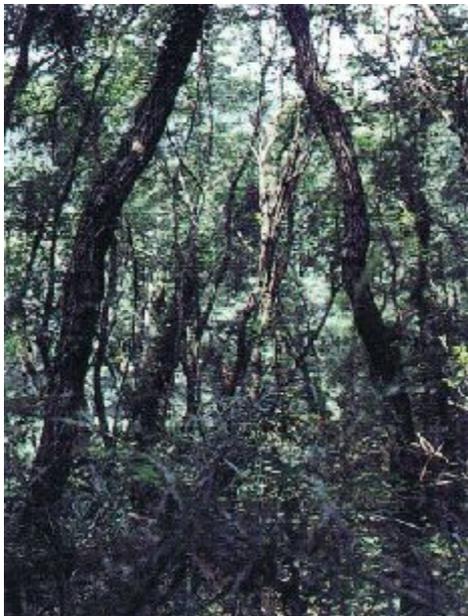


コウボウムギ

4) 植生

植物は、ただ単に勝手に生えているわけではありません。たとえば、日なたには日なたの植物、日陰には日陰の植物、と言うように、さまざまな環境に適した植物が生育しています。また、それぞれの種は、その環境によって微妙なバランスを保ちながら、お互いに結びつきを持って生活しています。

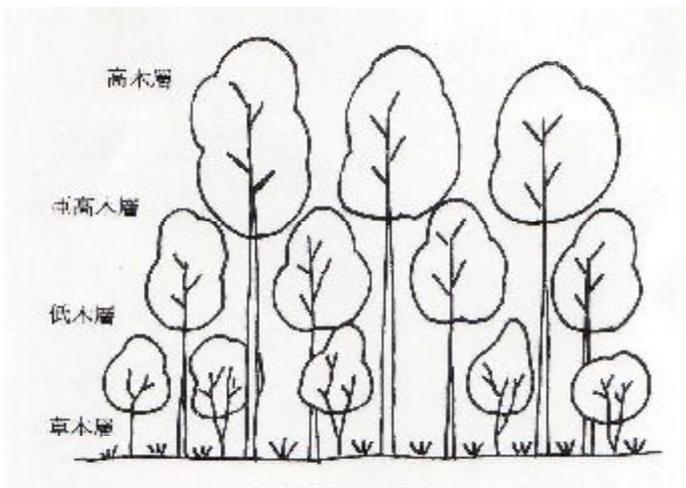
このような、つながりを持った植物の集まりを植生と言います。タブノキやコナラの林、ススキの草原、路ばたの雑草など、さまざまな環境にさまざまな植生が発達しています。これらの植生を表す単位として群落というものがあります。コナラ群落とススキ群落は全くちがう植生だということは、かんたんに分かりますよね。



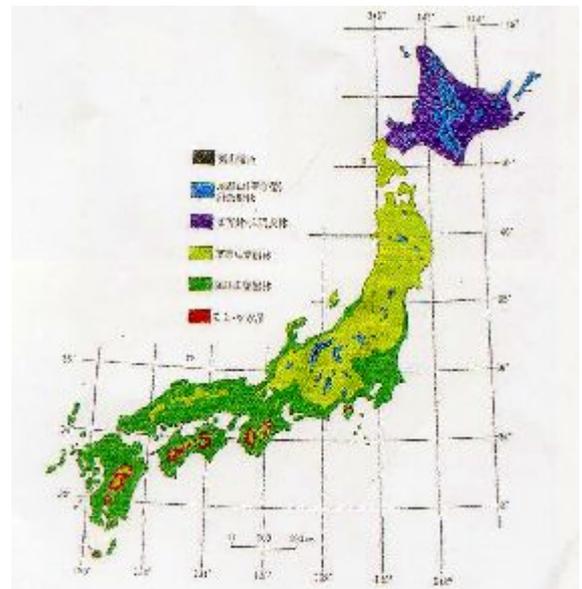
コナラ林



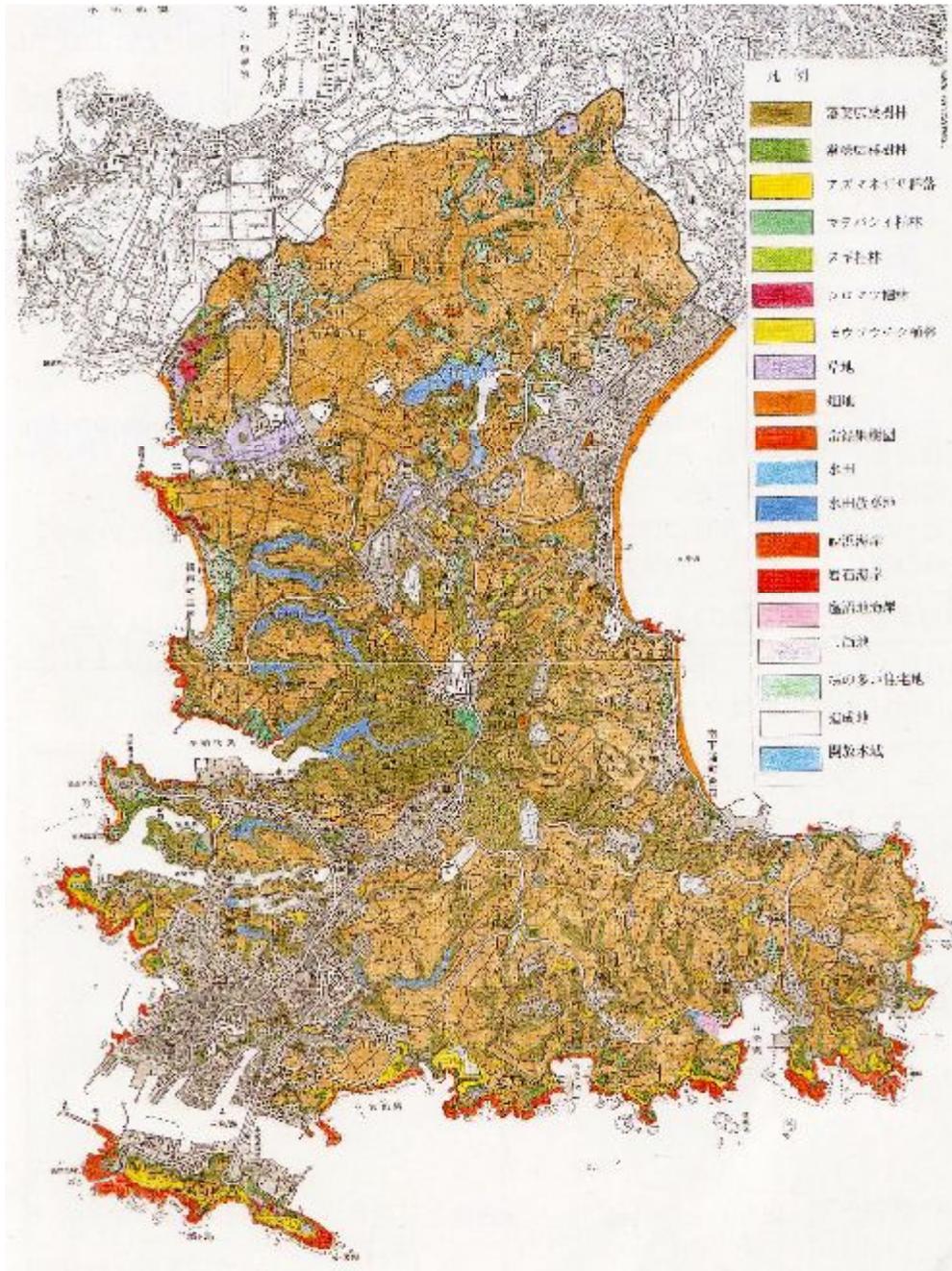
ススキ草原



自然林の構造



日本の植生図 (吉岡 1973)



落葉広葉樹林
 常緑広葉樹林
 アズマネササ群落
 マテバシイ植林
 スギ植林
 クロマツ植林
 モウソウチク植林
 草地
 畑地
 常緑果樹園
 水田
 水田放棄地
 砂浜海岸
 岩石海岸
 塩沼地海岸
 市街地
 緑の多い住宅地
 造成地
 開放水域

三浦市の植生

(福田、1997)

身近な話題

昔から、日本人の生活の中で、四季の変化と共にその季節にあった植物を利用し、生活に豊かさや変化をつけてきたようです。

中でも春の七草と言われている植物は、生活の中で利用されているので、知っておきたい植物です。

さあ、身の回りの植物の中に、これらの植物を見つけだすことができますか。探してみましょう。

春の七草

「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」

(ははこぐさ)(はこべ)(こおにたびらこ)(かぶ)(ダイコン)

この七草は、1月7日お粥を作り食べることにより、病気や災いよけや春の訪れを喜ぶなどの意味があったようです。

道ばたの草にも注意をしてみましょう。

近年環境の大幅な変化に伴い、植物の生育状況(植生)も変わってきています。身の回りを見回して、自分の気に入った植物を七種類決めてみよう。

自分で選ぶ春の七草

自分の気に入った・印象に残った植物(草本類)を七種類決めてみよう。(食べられない植物でもよい。)

○ 春の七草の名前	選んだ理由
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	